

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

開閉会日時	令和7年2月20日(木曜日)			開会	9:58	会議場所		別海町議会 委員会室3	
				閉会	14:38				
委員の出欠	3番	高橋 眞結美	出席	6番	宮越 正人	欠席	9番	小椋 哲也	出席
	10番	外山 浩司	出席	13番	中村 忠士	出席			
出席説明員	福祉部	福祉部長		福祉課長		介護支援課長		老人保健施設事務長	
		干場みゆき	出席	石戸谷友絵	出席	高橋 勇樹	出席	渡辺 久利	出席
		訪問看護ステーション所長		福祉課主幹		介護支援課主幹		居宅介護支援事業所長	
		堀 留美	出席	澤田 憲一	欠席	松本 静香	出席	大道 詳子	欠席
		福祉課主査		介護支援課主査		地域包括支援センター主査		老人保健施設主査	
		大森 晴海	出席	天神 幸子	出席	井川 仁	出席	中田 幸規	欠席
		老人保健施設主査		老人保健施設主幹					
	佐藤 裕美	欠席	東田知佐子	欠席					
	保健生活部	保健生活部長		保健生活部次長兼保健センター長		保健生活部次長		保健生活部次長兼町民課長	
		小川 信明	出席	千葉 宏	出席	田村 康行	欠席	谷村 将志	出席
		生活環境課長		保健課主幹		町民課主査		町民課主査	
		上田 健一	出席	畠澤みどり	欠席	小野 絵里	欠席	真籠 美香	欠席
		町民課主査		生活環境課主査		保健課主査		保健課主査	
		永田 恵一	欠席	中川 雅章	欠席	山崎さおり	欠席	能登麻奈美	出席
	保健課主査		母子健康センター主査						
	佐伯 祐司	欠席	岩光理代子	欠席					
	別海病院	病院事務長		病院事務課長		病院事務課主幹		病院事務課主幹	
		三戸 俊人	出席	椋木 直人	出席	奈良 司	出席	大森 圭介	出席
	委員外の出席							合計	0名
	事務局職員	事務局長	干場 富夫	主幹		木幡 友哉	合計		2名
傍聴者数	一般	0名	報道関係者		0名	合計		0名	

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

会議に付した事件及び会議結果など

発言者	会議経過 ※所管毎に議事を行う事情等により議事番号が前後することがある。
委員長 10番 外山	9:58 開会
	出席委員4名、欠席委員1名、会期1日 【福祉部所管事務調査】
福祉部長 干場	挨拶及び概要説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・町の訪問入浴介護事業について 現在、町内の介護事業サービス事業者が運営しているが、人材不足等のため事業の継続が困難であると事業者と協議を重ねてきた。要介護者が在宅生活を続ける上で必要不可欠な事業であることから、令和7年4月から老人保健施設すこやか内に新たに事業所を設置し、職員体制を整え、事業の継続を予定している。 ・こども家庭センターについて 児童福祉法の改正により、令和8年度末までに市町村に設置の努力義務となっている。令和6年度当初から、設置に向けて関係部署と業務内容の整理・協議を進め、保護者の利便性などを考慮し、保健センター内に令和7年4月から設置することを1月に正式決定した。今後においても、関係部署がより一層連携を強めて業務を遂行していきたいと考えている。
委員長 10番 外山	議事1 所管事務調査
	(1) 高齢者支援について
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・介護保険サービス利用状況等について資料により説明。 介護給付は、おおむね計画どおりに進められている。 介護老人保健施設の利用が増加した理由は、特養が空床ができたらずに次の利用を開始できるような体制をとっていただいていること、他市町の特養に入所されている方がいらっしゃること。 介護医療院の利用が増加した理由は、令和4年度に比べて入所者が増え、医療ニーズが高い要介護認定者が増加していると考えられる。 地域密着型サービスの利用実人数や給付費が令和5年度から増加しているのは、尾岱沼に地域密着型サービスの施設ができたことによる。 予防給付も、おおむね計画どおりに進められている。 コロナ禍に訪問リハビリのサービスが増加している。令和5年度から「中標津訪問リハビリセンター」で開始した訪問リハビリは、本町も提供エリアであることから、介護給付も含め、訪問リハビリの利用が増加している。 要支援・要介護認定者数の実績及び推計は、要介護認定者については年々増加傾向だが、第8期計画、第9期計画を策定している際に試算していた数値と、実際の実績値との増加の幅は、見込みよりも大きくはない状況。 地域包括支援センター運営状況について資料により説明 高齢者の災害時支援について資料により説明
委員長 10番 外山	質疑
委員 3番 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・介護給付の通所リハビリの利用人数が減ってきているが、これは地域密着型特別養護老人ホーム愛遊夢の関係以外に要因があるのか。 ・地域密着型特別養護老人ホーム愛遊夢の影響はない。 通所リハビリの人数は令和5年度よりも減っているが、サービスの内容は変えていないので、利用される方が今年度は少ないと考えられる。
介護支援課長 高橋	

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

委員	3番	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・通所リハビリは、西春別方面へ送迎の範囲を拡げたと聞いたが、利用者はいいるのか。 ・送迎できる体制をとっているが、西春別方面の利用者は多くはない。
介護支援課長		高橋	
老人保健施設事務長		渡辺	<ul style="list-style-type: none"> ・西春別方面は、現在2人が利用している。 ・西春別方面は広いが、送迎範囲に制限はあるか。
委員	3番	高橋	
老人保健施設事務長		渡辺	<ul style="list-style-type: none"> ・範囲は全域としているが、施設に滞在していただく時間も決まっているので、基本的には住所が西春別〇〇町、西春別駅前〇〇町の方は自宅まで送迎することができる。そのほかの方は地域センターや支所などに集まっていたり案内している。 ・住宅改修について、償還払いだと、経済的に先払いきれないため改修できない方もいたが、現物給付や受領委任払などは難しいのか。
委員	3番	高橋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・受領委任払については考えている。町の指定業者になって、契約をすることになるが、住宅改修を行っている事業者が地域に散見されているので、まとめることに時間を要する。 今年度、実際に住宅改修する方については支払いについてお話を聞きながら進め、償還払いで大丈夫との回答が多かったが、今後、継続して利用者の状況であったり、担当ケアマネージャーなどにも確認しながら進めていきたい。
委員	9番	小椋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・介護度別認知症人数について、令和4、5年度と比較して、令和6年度に一気に増えている。中でも要介護1、2の方に認知症が増えているが、基準が変わったのか、実数が増えたのか。 ・基準は変えていない。認定調査を進めていく中で、日常生活自立度Ⅱa以上の方は認知症に該当すると考えている。そういった方が増えているのは事実。
委員	3番	高橋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢階層別認知症人数について、64歳以下の方は、認知症という疾患で診断された人なのか。脳血管障害で自立度がⅡa以上の方は入っていないということか。 ・脳血管性認知症の方も、64歳以下なので若年性認知症に含めて考えている。脳血管疾患がない中で、若年性認知症と診断された方だけではない。
委員	9番	小椋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・介護認定に医師も入っていると思うが、懸念や理由についてなにかあるか。 ・これだということはない。 地域包括支援センター内に認知症初期集中支援チームを作り、老人保健施設すこやかやの山内施設長にサポート員として登録していただき、年2回程度、認知症サポート員と地域包括支援センターで情報交換をしている。その中で具体的に別海町に認知症が多くなっているという話はしていないが、今後協議をしていきたいと考える。
委員	9番	小椋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の高齢者虐待というのは、高齢者を虐待なのか、高齢者が虐待なのか。 ・高齢者「を」となる。虐待されている高齢者の相談を受けるが、虐待してしまっているのは高齢者というケースもある。資料の数値は、虐待されている高齢者の数。
委員	3番	高橋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者虐待について、身体的虐待が多いのか。 ・身体的虐待が起きている状況は警察介入になる。身体的虐待については、多くはない。経済的虐待、暴言、家庭内不安の中で強く当たってしまうのが多く、経済的虐待から始まり、ネグレクトなど。介護をしないというわけではなく、介護しなければならぬ立場が、介護度重度の方をみている状態で、介護できない状況。虐待を受けている方はネグレクト、虐待をしている・やむを得ずそうなっている方はセルフネグレクトという形が多い。
委員	3番	高橋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・気付くのはどういったケースが多いか。 ・サービス事業者、ケアマネージャーからの通報や情報提供が多い。
委員	9番	小椋	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・資料の消費者被害は、高額の商品・真つ当な商品を、買う管理ができなくて購入に繋がったのか、詐欺に近い悪質な事業者に引っかかったケースもあるのか。 ・令和4、5年度については、実際に物を買ってしまったけど買う気がなかったので返したい

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

	<p>という相談を地域包括支援センターで受け、消費者協会に協力していただいてクーリングオフをした。令和6年度は虐待と関連があり、自身は購入を進んで行っているが、実際は詐欺的なものだったので整理して返した。なお、悪質な業者が多く別海町に入りこんでいるというのは把握していない。</p>
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・「別海町災害時避難行動要支援者支援制度」の対象者条件に、「必要な個人情報を提供することに同意する方」とあるが、役所側から何か働きかけをしているのか、希望者が主体的に何かする必要があるのか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年民生委員にも依頼し、本人の申請により登録している。別海町内の当てはまる方を全て登録しているわけではなく、申請をしていただいた方を登録しているので、同意する方としている。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・基本申請が必要だが、民生委員が状況をみながら必要に応じてアクションを起こしているという認識でよいか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・本人が申請しなければ登録にはならない。自身や家族が申請をして、初めてこの制度に登録される。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・申請は窓口申請なのか、在宅申請も可能か。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に窓口で受けているが、担当ケアマネージャーなどからの申請で登録も可能。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に災害が起きた時に、どのような支援ができるのか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者のもとに協力員が行って、避難所まで連れて行くことを基本としているが、災害時なので、協力員も自身の安全を確保してから行ってもらうこととしている。 <p>協力員には、登録者の自宅から避難所までの経路を書いたものを渡してあるが、必ずしも絶対に避難させる確約まではとれない。</p> <p>年に1回、総務で行っている避難訓練に併せて高齢者の避難訓練をしているが、全ての方が参加するわけではないので実際の想定は難しい。</p>
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・協力員はどのように紐づけされるのか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・申請時に、協力員にしたいという申出もある。多くは、町内会長と担当民生委員に協力要請をし、地域から選出していただく流れ。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・この仕組みは全国的にもいろんな自治体で採用されているのか。採用されているのであれば、最近の能登や東日本大震災の時に稼働したのか、国から実例は出ているか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・国で定められた対策として進めているが、実例は把握していない。
委員 3番 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・登録者の身体状況や家族構成の変更があった場合、更新はしているのか。
介護支援課主幹 松本	<ul style="list-style-type: none"> ・ケアマネージャーや家族から連絡があれば再度登録し、町内会長や民生委員に随時情報提供している。
委員 3番 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・電気が止まると困る疾患がある方などは、町内会や民生委員が把握して動くのか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・災害時に限らず、在宅酸素などについては町で把握しているので、実際に電気が止まってしまった場合は、保健所の管轄となる。
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団と情報共有はしているか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・消防団と直接ではなく、消防署と情報共有している。
委員長 10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・町内会でも毎年、支援者会議を開いて確認をしているが、避難訓練時に登録者が参加するのが難しい。町内会でも働きかけが必要だと感じている。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・参加していただきたいので呼びかけをしているが、なかなか自発的に参加される方はいない。前回の訓練時は1名の方に参加していただいたので、町内会や町の防災で避難できるということを把握している。今後も呼びかけについて継続していく。
委員 3番 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・以前、高波で老健すこやかに何人が避難させてもらったことがあると記憶している。

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

	<p>今でも何部屋か確保しているのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・災害に備えての確保はしていない。 <p>以前の話は、町の防災の管轄となる。避難が必要になったときに、避難所で過ごすのが難しいという判断で施設と調整し、避難していただくという形。満床でも、町の施設は避難対応することになっている。</p>
介護支援課長 高橋	
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・「別海町災害時避難行動要支援者支援制度」について、登録者状況の資料では「西春別26人」となっている。内訳について。 <p>泉川と大成は0人となっている。申請をしていないけれど対象になる方はいると思うが、周知はどのようにしているか。</p> <p>支援制度に登録してなくても、町内会で支援が必要な方とどのような違いがあるか。「災害時における社会福祉施設等の相互支援協定書」について、単なる机上での打ち合わせなのか、避難訓練が行われているときに実際にこういう風にしようということが行われたのか。</p>
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・西春別駅前25名、西春別1名。 <p>周知方法は、年に1回民生委員に説明し、広報にも掲載している。対象になるであろう方に直接送付はしていない。</p> <p>要支援と認定されている方と「災害時避難行動要支援者支援制度」の登録者との違いは、登録者は災害時に要支援者となり、介護認定の要支援者は登録されていないという区別でしかない。</p> <p>災害時に、登録者のみ支援して、要支援認定者は支援しない等の判断について町内会などに説明はしていない。町内会から問い合わせがあったときには制度について説明し、できるだけ多くの方に申請していただきたいとお願いしている。</p> <p>「災害時における社会福祉施設等の相互支援協定」は、各施設で避難訓練を行うことが義務付けられているので行っているが、施設同士が合同で避難訓練をしたことはない。事業者から、合同で開催できたらいいと話があり、消防とも話し実際に災害が起きた時のために合同での避難訓練はこれから必要になってくると協議している。</p>
委員 13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・私もし要支援の立場なら、登録する必要があるか考える。登録しなくても町内会が助けてくれるし、町内会としては、登録してようがしてまいが助けなければいけない。役場としては登録してほしいと思っているが、どう考えているか。
介護支援課長 高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に登録を促しても、自分で逃げられるから大丈夫という方もいれば、自身で対応できそうでも登録される方もいる。防災の活動の中でも、町内会の協力体制については各町内会でとっていただいていると思う。 <p>自身で対応できるのであれば無理に登録してくださいとはならないが、実際に自身で対応できない方がいると思う。外になかなか出られない、状態が悪い、判断能力が落ちているなど、そういった方たちについては、登録をしていただくようお願いしていきたい。</p> <p>その区別を町内会の皆さんにさせていただくのは難しいところなので、地域包括支援センターに相談いただいて、連携をとって、登録が必要かなどの判断をしていく。</p>
委員長 10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに質疑あるか。
委員 一同	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。
訪問看護ステーション所長 堀	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護について資料により説明
委員長 10番 外山	<p>質疑</p>
委員長 10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・スタッフ体制について。
訪問看護ステーション所長 堀	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤3名、会計年度職員1名。登録は3.4人。

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

委員長	10番	外山	<ul style="list-style-type: none"> ・夜間勤務の割合について。 ・24時間対応を常勤職員3人で1週間交代で担当している。令和5年度は89件、令和6年度は令和7年2月18日時点で62件。9割は土日、祝日、夜間、早朝。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	3番	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問診療がなくなって、不都合はあるか。 ・最終的には主治医が死亡診断などを行うため、最後を自宅で迎えたい終末期の方の看取りができないところが一番大きい。 訪問診療に合わせて定期的に主治医に状況を報告したり、連携をとっているが、訪問診療がなくなるとできづらくなる。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・実際に出勤したときには、時間外勤務手当が出るのか、それとも代休なのか。 ・所長は管理職なので時間外勤務手当はないが、ほかの職員は時間外勤務手当で対応している。週休日や4時間以上働いた場合には半日振替し、休日・年末年始の場合は代休にしている。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の利用者15名は、希望者がほかにも居るけど職員が足りなくて限界なのか。 ・基本的に依頼があれば全て受けているので、今がこの人数。別海は広いので、遠方の依頼があれば、週2回の依頼を1回とかに制限することになるかと思うが、今までにはない。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・もし、病院勤務の看護師が訪問看護で勤務するとしたら、資格は同様だが通用するのか。 ・基本的な処置は看護師の資格があれば共通する。訪問看護は乳児から高齢者まで全てが対象で、様々な疾患や医療機器を扱うケースが多いので、病院の内科だけ、外科だけ、という方が訪問看護に来るといろんなケースに対応しなければいけない場合や、自宅に何うと介護の相談などを受けることが多いので、介護や福祉の知識をある程度持っていたほうがニーズに応えられる。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	9番	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問時に、医療的な部分で医師との相談が必要なケースは、病院に連絡して情報交換ができるのか。 ・利用者の自宅から搬送の連絡をし、情報をまとめ、看護師がついて行って外来に報告するが、直接主治医に報告していただきたい場合もある。その辺りの連携は、別海病院とは取れている。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員長	10番	外山	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問看護で透析はできるのか。 ・血液透析と腹膜透析の2種類あり、腹膜透析は自宅でできる。今まで腹膜透析で訪問看護に入ったケースがある。お腹から出ているチューブの感染予防や、透析の機械の操作などがある。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	3番	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・退院支援について、訪問看護の場合は病院の地域連携室とやり取りしているのか。 ・別海病院以外は地域連携室と調整している。別海病院は病棟から連絡が来る。 退院時のカンファレンスは、コロナ感染症もあってなかなかできない状況だったが、ほかの病院に関しては場所を設けていただいていた。訪問看護も参加すると加算が取れる。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	3番	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・別海病院は病棟で本人と会えない状況か。 ・今はそういった状況。直近のケースは、様々なサービスをつかっていたので、それに関してはケアマネージャー中心に短時間カンファレンスをやってほしいと要望し、やっていただいた。なかなかみんなが集まってというのは別海病院の状況的に難しい。
訪問看護ステーション所長		堀	
委員	3番	高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・別海病院では退院時の支援に地域連携室は関わっていないのか。 ・関わっていないというわけではないと思うが、B病棟は師長、A病棟はリーダーという形。 別海病院でそういった形をとっているのではないかと考える。
訪問看護ステーション所長		堀	
介護支援課長		高橋	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携室を通じて、訪問看護を利用している病院もあるが、別海病院の場合は地

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

	<p>域連携室ではなくて病棟がより詳しい内容をお伝えできることから、訪問看護との連携はそのようになっている。地域連携室がないということではなく、病院内の役割分担。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほかに質疑あるか。 ・質疑なし。
委員長 10番 外山	
委員 一同	
委員長 10番 外山	議事2 その他
福祉課長 石戸谷	<ul style="list-style-type: none"> ・本別海へき地保育園について 今年度は入園希望者がいないため休園としていたが、令和7年度についても入園希望者がいないため、引き続き休園することとした。 今後は、地域の実情などを踏まえて検討していきたい。 (1) 第3期別海町子ども・子育て支援事業計画について
委員長 10番 外山	
福祉課長 石戸谷	<ul style="list-style-type: none"> ・2月22日までパブリックコメントを実施している。終了後は意見を集約し、子ども・子育て会議で最終確認し、計画策定完了とする予定。 ・第3期別海町子ども・子育て支援事業計画について報告
福祉課主査 大森	
	福祉部 11:15 終了 休憩 13:26 再開
委員長 10番 外山	挨拶
	【病院所管事務調査】
病院事務長 三戸	挨拶及び概要説明
	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスは、昨年12月30日に内科病棟の入院患者が感染していることが判明し、その後、入院患者及び職員に感染が拡大したが、1月27日には院内感染は収束している。 インフルエンザについても、年末年始にかけて感染者が増加したが、現在は新型コロナウイルス、インフルエンザともに感染者は減少しているところ。
委員長 10番 外山	議事1 所管事務調査
	(1) 経営状況について
病院事務課主幹 大森	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度4月から12月までの経営状況について資料により説明 入院患者数 12,921人、前年度比818人減。 1日平均患者数 47.0人、前年度比3.0人減。 病床利用率 56.0%、前年度比3.5%減。 内科医1名、外科医1名が令和6年3月末で退職したことに伴い減少したものと考えている。また、新型コロナウイルス陽性者のための病床を確保していることも一因であると考えている。 外来患者数は、診療所と合わせて52,903人、前年度比較3,169人減。 整形外科で増となり、それに伴いリハビリテーションの増となっているほかは、概ね減少傾向と捉えている。 医業収益 約8億2,948万円、前年度比約1億7,140万円減。 入院収益、外来収益ともに大きな減。 医業費用 約14億8,548万円、前年度比約9,980万円減。 医業外収入は、約9億4,414万円、前年度比約1億5,408万円増。 12月末時点での一般会計からの繰入金の受入れ累計額が、前年度比1億6,000万円増となったことが主な要因。 医業間費用 約1,177万円、前年度比約82万円増。 企業債利息支払い額の増などによるもの。

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

	<p>令和6年度収支（12月時点）</p> <p>事業収益 17億7,361万9,929円。</p> <p>事業費用 14億9,724万9,263円。</p> <p>差し引き事業収支 2億7,637万666円。</p> <p>前年度比 約8,167万円増。</p> <p>年度末に向けて効率的な運営を行っていくが、現状、診療体制が十分なものではないため、一般会計からの支援を受けながら、安心、安全な地域医療を維持していく。</p>
委員長 10番 外山	<p>質疑</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出張医について、前年度と比較し人数はどのような変化があったか。 ・医師が退職した分の当直を賄うために、増員しての対応を4月から行っているため、前年度と比較すると人数は増えている。
委員 10番 外山	
病院事務課長 榎木	<p>産婦人科の時間外の待機で来られてた医師は、産婦人科はお産休止ということで呼び出し等がないため、毎月2人呼んでいたが、今年度からは減っている。</p> <p>当直医が主な出張医となっているが、そのほかは整形外科で月2回来られていた先生が月4回に外来回数を増やして対応した結果、外来収益が少し上がっていると考え。</p>
委員長 10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・宿直医について、内科医が減った分だけ、派遣人数等に変化はあったか。 ・常勤医の人数がいた時には、当直に月2、3回、退職された2人と、西村院長、山田外科医長の4名が入っていたが、その分を全て出張医を呼んで対応している。 ・西春別駅前診療所の外来患者数が、約400名減っているが、考えられる原因は何か。 ・資料は9か月分の数値なので、誤差は特別な事情によるものではないと認識している。 ・診療体制自体に変更はなかったため、大きく変わる要素としては、ワクチン接種の外来患者数がその年の流行によって大きく増減することがある。 ・外科も内科も医師は減ったが、患者数は2分の1になった訳ではなく、1割も減ってないぐらいで留まっているが、出張医も含めて、数をなんとか確保しているのか。それとも、院長、山田先生がたくさん診察しているのか。去年に比べて個人負担が増えていないかどうかの懸念確認が1点。
病院事務課長 榎木	
委員 10番 外山	<p>産業収益が17%程度落ちていますが、外来患者数はそこまで落ちていない。入院患者数が産業収益と同じぐらいの率で落ちているということから、病院の経営的には、入院数と入院収益に医師減の影響が出ているのか。</p> <p>今残っている医師が非常に頑張っておられるということ。</p> <p>病棟にしても、患者数は2分の1とはならず、今残っている医師の診る患者数が増えている。内科病棟は、今は30人を超える患者を院長1人で診ている。</p> <p>外科は、急性期の患者をたくさん入れると、対応が難しくなるので、前半は割と控えめだったが、経営面から12月補正の話もあり、医師が少し意識して、11月辺りから増えてきたので、診る数が増えている。</p> <p>売り上げに関しては、医師ごとに診療方針があるので、退職された越智先生は、高度な単価の高い診療によって収益が上がっていたと考える。</p> <p>逆に西村院長は、患者本位の負担の少ない治療をする傾向があるので、その差があるのではないかと考えている。</p>
病院事務課長 榎木	
委員 9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・精神科外来の患者数が増えているように感じるが、医師1人で回しているのか。 ・町立中標津病院の精神科医が1人休診されて、患者がこちらにも流れてきているところがあり、回せてるかと言うと、なんとか診療日を増やして、対応しているところと、決して余裕を持って診れている状態ではないと思うが、精力的にやっけていただいているところ
委員 3番 高橋	
病院事務課長 榎木	

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

		<p>ではあるが、長くこの状態が続くのは医師の負担としてよろしくないと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・去年から比べると診察日を増やしたのか。
委員長	10番 外山	
病院事務課長	椛木	<ul style="list-style-type: none"> ・水曜日は午後と夜間診療だけだったが、午前中も新患受入枠として増やして、火曜日、水曜日、木曜日を診療日とし、火曜日と木曜日は午前、午後と外来をやっている。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・出張医の経費は医業費用に入るのか、給与費に入るのか。
病院事務課主幹	大森	<ul style="list-style-type: none"> ・出張医については経費に入る。
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・議会サポーターの西科氏が、芽室病院の立て直し、改革をやっている関係もあり、以前フォーラムのようなものを見に行ったときに、部署単位、外科・外来という単位で、売り上げがどれぐらいで経費がどれぐらいでという、部門単位でどれぐらいの、言い方は悪いが、儲けが上がっているのかというものを示して、どういうふうに病院を改革していこうみたいな取り組みを行っているのを見聞きました。 <p>正確にやるのは難しいとは思いますが、今別海病院の中でどこが1番利益を上げにくい、上げやすいとか、そういうような分析・傾向を掴んだりしたことはあるか。</p>
病院事務課長	椛木	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にそこまできめ細かく採算性を調べたことはない。診療科ごとで見ると、経費のかかるものはそれなりにお金が取れるが、それなりに出ていくものもある。 <p>不採算部門前提で考えて、診療科を決めていくという位置づけでは、別海病院はないのかなってというのが根底にあるので、患者のニーズに合わせた診療科を最低限残していくことで考えている。</p>
委員長	10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・出張医は、どの方面から来ているのか。
病院事務課長	椛木	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄からは、整形の膝の医師で、月1回、引き続き来られている。整形の医師は4人來られていて、腰の医師は東京から、手の医師は神戸から、肩の医師は東京から。 <p>固定で当直で来られてる医師は、大阪医科薬科大学から月2回、大阪大学から月2回。4月以降も継続で、どちらも1人増えそうな感じ。固定で年間来ていただいている。</p> <p>週末は札幌医科大学の消化器内科の医師、脳神経内科の医師が金曜日の夜から日曜日のお昼まで固定で来ていただいている。</p> <p>そのほか、道内におられる医師、新たな医師が定着して、関係性的にはうまくいっている医師が残られて、新年度を迎えようとしているところ。</p>
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・今は個人との関係性だが、医師が増えるとなると、今後、組織同士としても関係を深めていくことはできそうか。
病院事務長	三戸	<ul style="list-style-type: none"> ・大阪医科薬科大学は、前の整形の先生からのついでで、市立ひらかた病院の近くにあり、姉妹都市の枚方市からも近いという縁で、8年、9年ぐらい前から研修医が定期的に来ていて、その辺のつても利用して、1年ごとでもいいので、外来をやってくれる先生、内科でも外科でも来ていただくようにしていきたいと思っている。 <p>大阪医科薬科大学にも理事者等とアクションを起こしていきたいと思っていたが、病院内が落ち着かなく、コロナウイルス感染症があった事もあり、院長が大阪に行く機会がなかなか取れない悪循環になっているため、今すぐという話ではなく、パイプを作っておいて、院長なり理事者なり、あるいは議員が行く機会ですらアクションを起こせたらというのが狙い目になってくると思う。</p>
委員	9番 小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・そういうコネクションを作る時はいろんなケースがあると思うが、やっぱり病院のトップ同士の、院長同士の付き合いやコネクションも重要になってくるのか。
病院事務長	三戸	<ul style="list-style-type: none"> ・市立ひらかた病院は医師の派遣を担当しているのは副院長で、一昨年一度お会いしたことがある。 <p>大阪医科薬科大学は研修部門はあるが、今当直で来てくださっている方は、救急部</p>

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

	門から来ている。新年度はその救急部の准教授が来たいという話もあるので、進めていければと思っている。
委員長 10番 外山	・ほかに質疑あるか。
委員 一同	・質疑なし。
委員長 10番 外山	議事2 その他
病院事務長 三戸	・尾岱沼診療所医師について 佐藤先生は今年度末3月31日で退職する。最終診療日は3月14日を予定している。現在のところ、3月17日から31日までは休診予定。 後任の医師確保については、佐藤先生の退職が公になったのが12月議会最終日だったので、非常に時間がない中で、様々なつてを使って、動いているが、未だ残念ながら医師の確保には至っていないが、近日中に面会を予定している方が1人いる。 決まってくれることを祈っているが、仮にだめだった場合でも、引き続き次の手段に当たり、そこでも決まらない場合は、週に何回か診療できる体制を作るといった形で動いていこうと思っている。
委員長 10番 外山	確認事項
委員長 10番 外山	・その面談は3月議会前に行うのか。
病院事務長 三戸	・そのとおり。
	病院 13:58 終了 休憩 14:05 再開
委員長 10番 外山	挨拶
	【保健生活部所管事務調査】
保健生活部長 小川	挨拶及び概要説明
委員長 10番 外山	議事2 その他
	(2)別海町生育基本計画（案）について
保健生活部次長兼保健センター長 千葉	・資料により説明。
委員長 10番 外山	(3)ペットボトルリサイクル方法の変更について
生活環境課長 上田	・資料により説明。
委員長 10番 外山	確認事項
委員 小椋	・株式会社JEPLANとの「地域循環共生圏推進に関する包括連携協定」について、協定が「根室北部廃棄物処理広域連合（中標津町・標津町・羅臼町）で1本と別海町単独で1本の計2本になる仕組みについて確認したい。
生活環境課長 上田	・ペットボトルの引き渡し契約が、別海町と株式会社JEPLANが単独で1本。 広域連合のリサイクルセンターに別海町が入っていないので、ほか3町で1本と、協定も分ける形。
保健生活部長 小川	・ペットボトルのリサイクルに関しては、別海町が先行してやっていたので、その後広域化するとき、別海以外が始めた。なので今はペットボトルに関しては2団体となる。 協定については2団体で足並みを揃えるというような形となった。
委員 小椋	・資料に、株式会社JEPLANは、「基本品質は問わない、汚れ、ラベル、キャップが多少ついていても問題ない。」と記載されているが、別海町はラベルとキャップを分けていて、中標津町はそのままだが、変更されるのか。
生活環境課長 上田	・分子レベルまで分解するということで、多少付いていても問題ないと言われているが、プラスチックはリサイクルしたほうがいいので、変えずに収集していきたいと考えている。
委員 小椋	・4町を同じルールにするのか。それとも、他町は引き続き手間がかからないのに、別海だ

令和7年第2回福祉医療常任委員会 要点記録

		<p>け分別するが同じだし先となると、疑問に思う人もいると思うが。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・協議の中で、ペットボトルの収集方法を変えようという話は1回も出ていなので、おそらく変えないと思われる。
生活環境課長	上田	
委員	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・別海町以外は、分別しなくてもいい可能性が高いということか。
生活環境課長	上田	<ul style="list-style-type: none"> ・その可能性はある。
保健生活部長	小川	<ul style="list-style-type: none"> ・他町の行動に制限をかけることはできないので、そこは致し方ないと考える。 <p>ペットボトルの回収方法については、全国的に見ても統一的なやり方というのはないため、住民の皆さんに理解していただける方法は探っていく必要があると考える。</p> <p>計画はないが、管内の動向を見て分別方法を検討すべき状況だと判断した場合には検討して、住民にわかりやすいような方法にする必要性はあると認識している。</p>
委員	小椋	<ul style="list-style-type: none"> ・リサイクルセンターでの分別の流れは、今と変わらずやっていくのか、それともある程度細かくしなくてもいいから、業務が少し楽になるのか。
生活環境課長	上田	<ul style="list-style-type: none"> ・株式会社JEPLANが本町のリサイクルセンターを視察した際に、集めてきた物をこのままでもいいということで仕事が楽になる部分はあると思う。ただ、細かいルールはない。
委員長	10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・現在働いてる方はそのまま継続しながらやっていくのか。
生活環境課長	上田	<ul style="list-style-type: none"> ・継続した上で、かつ集めてきた物を極端に綺麗にしなくても、ある程度の段階で、潰して固めることができる。
委員	13番 中村	<ul style="list-style-type: none"> ・ペットボトル引渡収入について、資料によると、過去5年間の最高額は284万で、最低は0円とあるが、引渡先が変更になって、安定的に毎年約10万円の収入になるという理解でいいか。また、令和6年度のペットボトル引渡収入の概算はどのぐらいの予定か。
生活環境課長	上田	<ul style="list-style-type: none"> ・令和6年度の数值は概算でも出せないため、令和5年度は、見込みで100万円程。 <p>過去5年間の平均については、令和4年度の284万円という特需で上がった部分は除いての平均値のため、1.1円。ずっとその価格で買い取っていただける。</p>
委員長	10番 外山	<ul style="list-style-type: none"> ・ほかに質疑あるか。
委員	一同	<ul style="list-style-type: none"> ・質疑なし。
委員長	10番 外山	<p>閉会挨拶</p>
		<p>14:38 閉会</p>